

2015 年度 3 年次対象 学修活動に関するアンケートの結果（報告）

IR センター教育情報分析室・FD 委員会

I. アンケートの概要

2016 年 1 月から 2 月に 1 年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学びの充実度、学士力・教育目標の達成と意欲の伸び（以下、学士力等の伸び）、諸活動に費やす時間、教育に対する満足度に関する項目より構成されている。173 名の回答が得られた（回答率 12.8%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性

回答者の学科構成を表 1-1、属性を表 1-2 に示す。

表 1-1 学科

学科名	度数	%
社会福祉学科	46	26.6
社会教育学科	15	8.7
福祉心理学科	24	13.9
産業福祉マネジメント学科	17	9.8
情報福祉マネジメント学科	9	5.2
教育学科	34	19.7
保健看護学科	8	4.6
リハビリテーション学科	3	1.7
医療経営管理学科	10	5.8
判別不能	7	4.0
総計	173	100.0

表 1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	41	23.7
	女性	132	76.3
入試形態	A0 入試	16	9.2
	推薦入試	53	30.6
	一般入試	80	46.2
	センター入試利用	21	12.1
部・サークルの所属	学士 編入学	3	1.7
	無	50	28.9
ボランティア活動	有	123	71.1
	無	62	35.8
海外留学	有	111	64.2
	無	166	96.0
アルバイト経験	有	7	4.0
	無	25	14.5
インターンシップ	有	148	85.5
	無	134	77.5
学外実習	有	39	22.5
	無	74	42.8
外部テスト	有	99	57.2
	無	131	75.7
	専門知識・技能の検定試験	27	15.6
キャリアデザインⅡ	語学能力検定試験	15	8.7
	無	158	91.3
産学官連携授業	有	15	8.7
	無	160	92.5
単位互換の活用	有	13	7.5
	無	170	98.3
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	有	3	1.7
	無	80	46.2
副専攻の履修 (保健看護学科、リハ学科除く)	有	5	2.9
	無	140	80.3
副専攻の履修 (保健看護学科、リハ学科除く)	有	15	8.7
	無	158	91.3

2. 施設・設備等の利用状況

施設・設備等の利用状況を表 2-1 に示す。

表 2-1 施設等の利用状況

		なし	たまに	ときどき	頻繁に
図書館	度数	5	30	82	56
	%	2.9%	17.3%	47.4%	32.4%
美術工芸館	度数	144	17	5	7
	%	83.2%	9.8%	2.9%	4.0%
キャリアセンター	度数	21	94	50	8
	%	12.1%	54.3%	28.9%	4.6%
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	117	44	12	0
	%	67.6%	25.4%	6.9%	0.0%
ラーニングcommons	度数	30	34	54	55
	%	17.3%	19.7%	31.2%	31.8%
語学・異文化学習支援室	度数	153	13	3	4
	%	88.4%	7.5%	1.7%	2.3%
外国人教員との交流	度数	141	19	8	5
	%	81.5%	11.0%	4.6%	2.9%
留学生との交流	度数	149	12	7	5
	%	86.1%	6.9%	4.0%	2.9%
オフィスアワーの利用	度数	146	17	9	1
	%	84.4%	9.8%	5.2%	0.6%
リエゾン・ポートフォリオの利用	度数	78	50	29	16
	%	45.1%	28.9%	16.8%	9.2%

次いで、授業履修時の履修モデル・履修系統図の活用等について表 2-2 に示す。

表 2-2 履修モデル・アンケート等の活用

		参考にしな かった	あまり参考に しなかった	まあまあ参考 にした	かなり参考に した
履修モデル・履修系統図の活用	度数	22	45	89	17
	%	12.7%	26.0%	51.4%	9.8%
ルーブリック評価の活用	度数	84	62	24	3
	%	48.6%	35.8%	13.9%	1.7%
GPAの活用	度数	73	71	26	3
	%	42.2%	41.0%	15.0%	1.7%
学習成果のフィードバックの活用	度数	69	74	28	2
	%	39.9%	42.8%	16.2%	1.2%
学生アンケート・授業評価アンケートの活用	度数	47	76	44	6
	%	27.2%	43.9%	25.4%	3.5%
卒業生アンケートの活用	度数	87	63	21	2
	%	50.3%	36.4%	12.1%	1.2%

続いて、所属する学科の教育目標とディプロマ・ポリシーの認知状況について表 2-3 に示す。

表 2-3 教育目標、ポリシーの認知

		知らない	あまり知らな い	まあまあ知っ ている	かなり知って いる
学科の教育研究上の目的・教育目標	度数	44	70	54	5
	%	25.4%	40.5%	31.2%	2.9%
学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	度数	48	75	45	5
	%	27.7%	43.4%	26.0%	2.9%
大学の学修成果の方針(アセスメント・ポリシー)	度数	45	76	46	6
	%	26.0%	43.9%	26.6%	3.5%

3. 学びの充実度

3年次の学びの充実度について図1に示す。なお、これら9項目は「かなり充実していた」を4、「充実していなかった」を1とする4件法にて回答を求めており、平均値2.5以上であることが充実を示す1つの基準となる。充実度の高い項目として示されたのは「専門演習」であった。

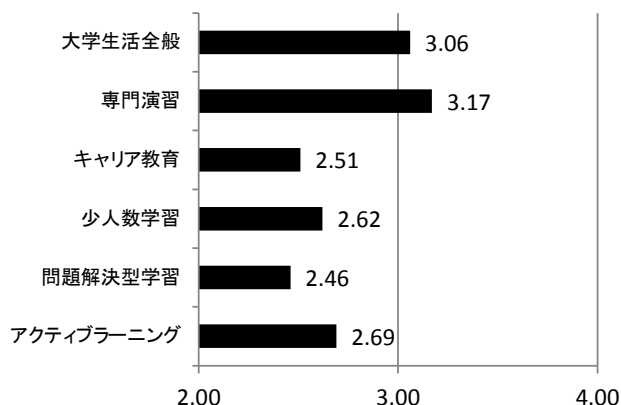


図1 3年次の学びの充実度

4. 学士力等の伸び

3年次進級時と比した学士力等の伸びについて、項目順にまとめたものを図1-1、程度順にまとめたものを図1-2に示す。全ての項目が平均値3.5以上（伸びたことを意味する、「非常にそう思う」を6、「まったくそう思わない」を1とする6件法）であった。特に伸びの大きい項目として示されたのは、「良心、社会規範」「学科の専門知識」「他者とのコミュニケーション」に関する項目であった。他方、「図表を用いたレポート・資料作成」に関する項目は伸びの程度が小さいことが示された。これらすべて過年度と同様の傾向であった。

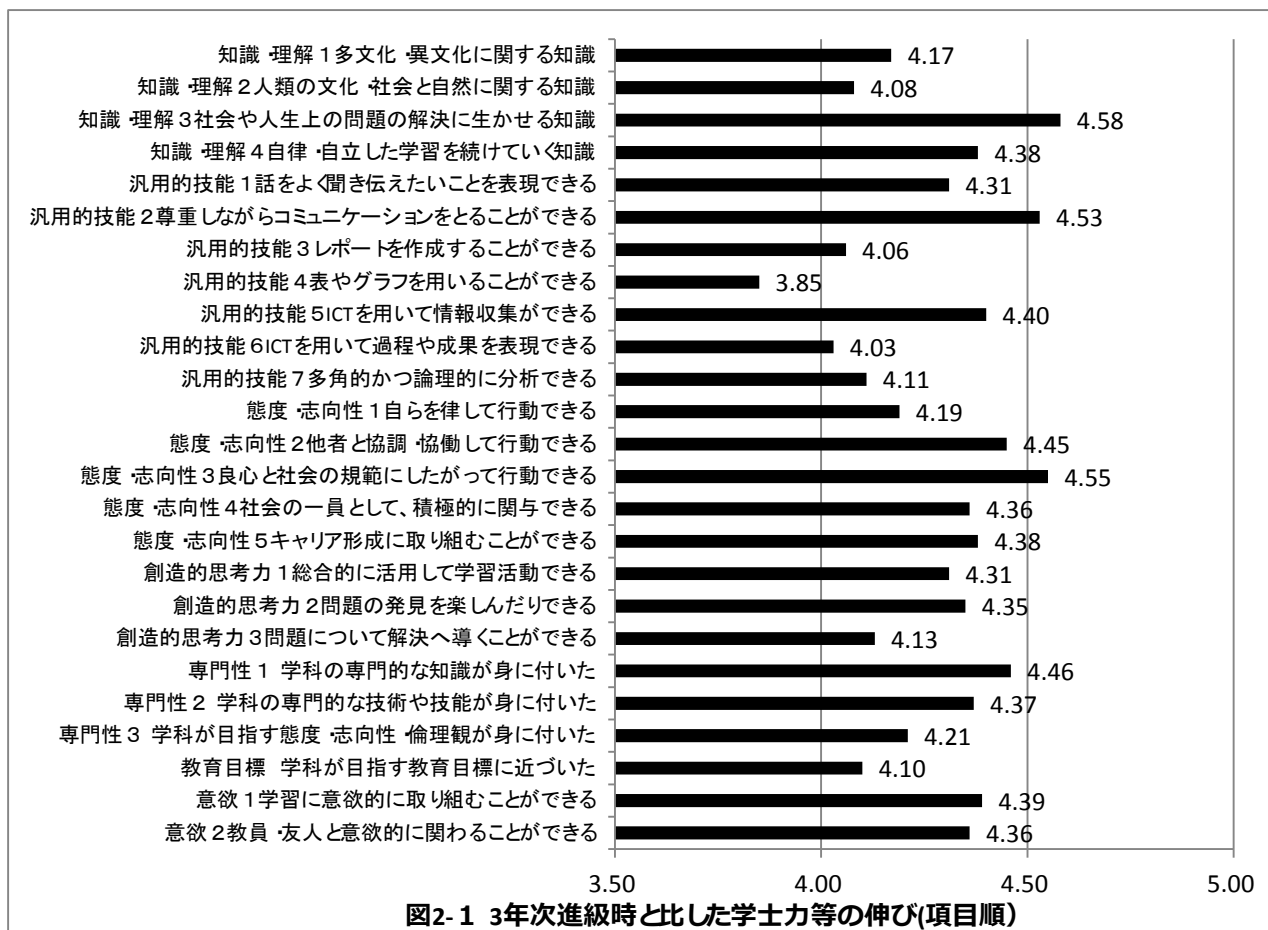
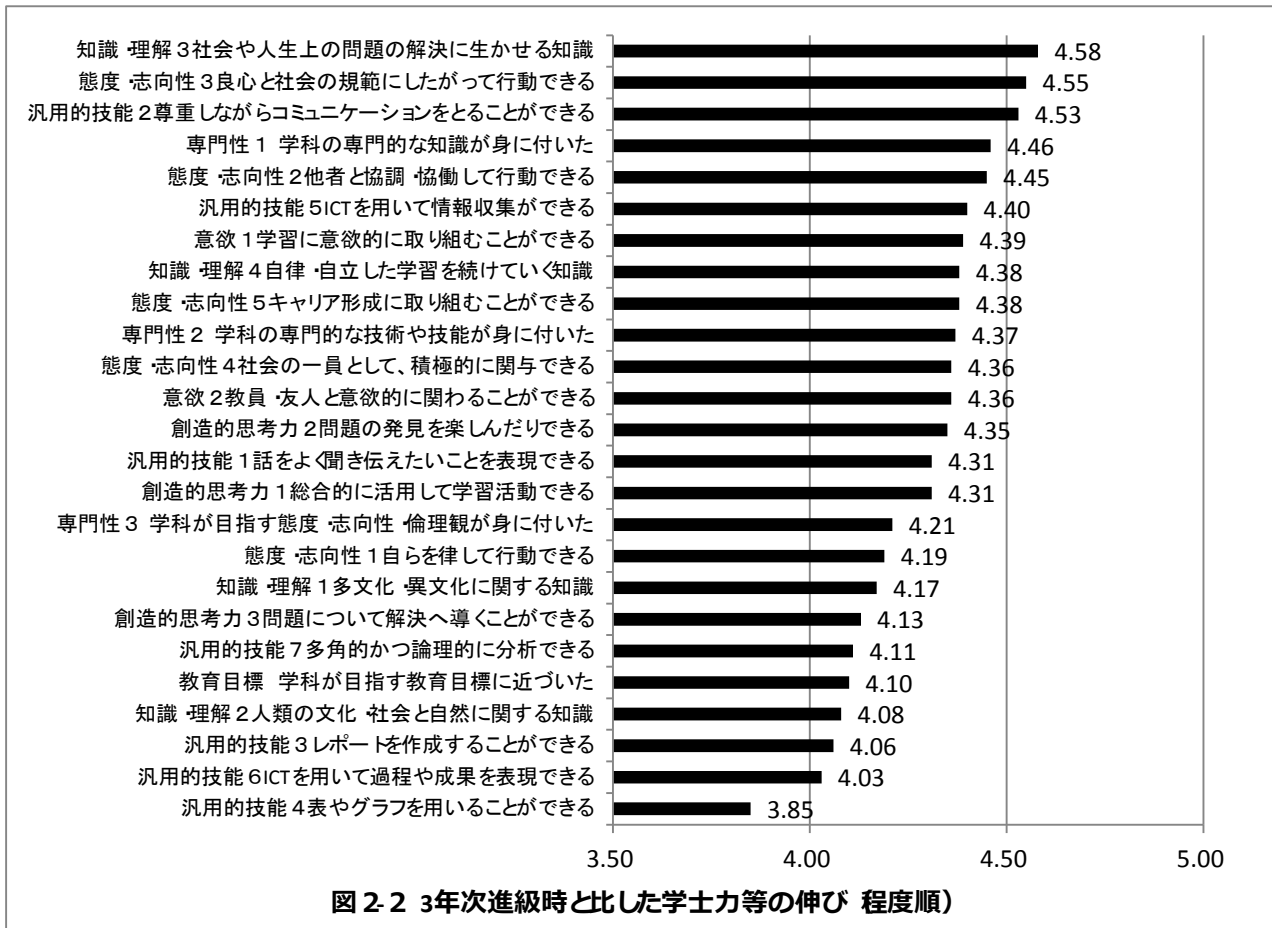


図2-1 3年次進級時と比した学士力等の伸び(項目順)



5. 諸活動時間

1 週間当たりの諸活動にあてる時間について表 3 にまとめた。各項目において割合上位の 2 つの時間帯を太字にしている。

表 3 3年次の1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～3時間未満	3～6時間未満	6～11時間未満	11～16時間未満	16～21時間未満	21～26時間未満	26～31時間未満	31時間以上
授業に出席する	度数	1	0	4	10	13	33	51	28	13	20
	%	0.6%	0.0%	2.3%	5.8%	7.5%	19.1%	29.5%	16.2%	7.5%	11.6%
履修している授業の予習や復習をする	度数	5	48	72	25	11	5	3	1	2	1
	%	2.9%	27.7%	41.6%	14.5%	6.4%	2.9%	1.7%	0.6%	1.2%	0.6%
大学の授業・予習・復習以外の学習 (読書など)をする	度数	10	64	55	21	12	3	2	4	0	2
	%	5.8%	37.0%	31.8%	12.1%	6.9%	1.7%	1.2%	2.3%	0.0%	1.2%
部活・サークル活動をする	度数	60	33	32	16	5	11	6	2	2	6
	%	34.7%	19.1%	18.5%	9.2%	2.9%	6.4%	3.5%	1.2%	1.2%	3.5%
ボランティア活動をする	度数	73	34	27	18	7	4	3	0	3	4
	%	42.2%	19.7%	15.6%	10.4%	4.0%	2.3%	1.7%	0.0%	1.7%	2.3%
アルバイト仕事をする	度数	25	6	12	18	26	30	33	14	2	7
	%	14.5%	3.5%	6.9%	10.4%	15.0%	17.3%	19.1%	8.1%	1.2%	4.0%
新聞やインターネット上のニュースサイト 等で時事問題等の情報をチェックする。	度数	7	72	57	21	7	1	1	3	0	4
	%	4.0%	41.6%	32.9%	12.1%	4.0%	0.6%	0.6%	1.7%	0.0%	2.3%
キャリア形成活動 (キャリアセンターの資料 利用・相談など) や就職・進学活動をする	度数	33	65	49	15	4	2	1	1	0	3
	%	19.1%	37.6%	28.3%	8.7%	2.3%	1.2%	0.6%	0.6%	0.0%	1.7%

6. 東北福祉大学での教育の満足度

1年次の学びの充実度について図3に示す。なお、これら5項目は「非常に満足」を6、「非常に不満」を1とする6件法にて回答を求めており、平均値3.5以上であることが満足していることを示す1つの基準となる。特に「学習支援」「キャリア形成・就職支援」の満足度が高いことが示された。

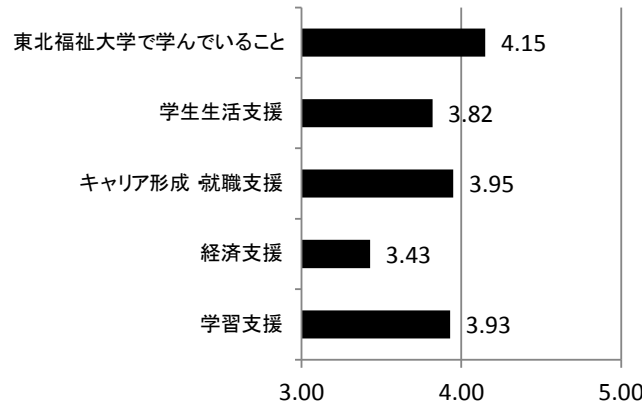


図3 3年次の大学への満足度

7. 属性と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は表4-1、表4-2の通りであった。産学官連携講義は知識の伸びに、ボランティア・インターンシップ学外実習などの活動は専門性と意欲の伸びにそれぞれ関連するなど、活動事に学士力等を構成する諸側面との関わりが異なることが示された。

表4-1 属性と学士力等の関係 (1)

		性別	入試形態	部・サークルの所属	ボランティア活動	海外留学	アルバイト経験	インターンシップ
知識・理解	多文化・異文化に関する知識					無<有		
	人類の文化・社会と自然に関する知識							
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識							
	自律・自立した学習を続けていく知識							
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる							
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる							
	レポートを作成することができる					無<有		
	表やグラフを用いることができる							
	ICTを用いて情報収集ができる							無<有
	ICTを用いて過程や成果を表現できる							
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる							
	自らを律して行動できる		一般、センター<A0、推薦、編入		無<有			
	他者と協調・協働して行動できる		一般<推薦					
	良心と社会の規範にしたがって行動できる		一般<推薦					無<有
	社会の一員として、積極的に関与できる		一般<A0、推薦					無<有
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる				無<有			
	総合的に活用して学習活動できる		一般<A0、推薦					
	問題の発見を楽しんだりできる							
専門性	問題について解決へ導くことができる		一般<推薦					無<有
	所属する学科の専門的な知識				無<有			
	所属する学科の専門的な技術や技能				無<有			
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		一般<推薦					
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		一般<推薦					
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		一般<推薦、編入		無<有			
	教員・友人と意欲的に関わることができる				無<有			

表 4-2 属性と学士力等の関係 (2)

		学外実習	外部テスト	キャリアデザインⅢ	産学官連携授業	単位互換の活用	実学臨床教育	副専攻の履修
知識・理解	多文化・異文化に関する知識				無<有			
	人類の文化・社会と自然に関する知識				無<有			
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識				無<有	無<有		
	自律・自立した学習を続けていく知識				無<有	無<有		
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる							
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			無<有	無<有			
	レポートを作成することができる							
	表やグラフを用いることができる							
	ICTを用いて情報収集ができる							
態度・志向性	ICTを用いて過程や成果を表現できる							
	多角的かつ論理的に分析できる							
	自らを律して行動できる							
	他者と協調・協働して行動できる							
創造的思考力	良心と社会の規範にしたがって行動できる							無>有
	社会の一員として、積極的に関与できる			無<有				
	キャリア形成に取り組むことができる	無<有		無<有				
	所属する学科の専門的な知識	無<有		無<有				無>有
専門性	所属する学科の専門的な技術や技能	無<有	語学<無、技能検定			無>有		
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	無<有		無<有				
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標			無<有				
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標			無<有				
	学習に意欲的に取り組むことができる							
意欲	教員・友人と意欲的に関わることができる	無<有					無<有	

8. 施設・設備の利用と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表 5-1 の通りであった。特に係数が 20 を超えている項目を太字とした。特に「リエゾンポートフォリオの利用」が学士力等に全体的に正の関連があることが示された。また、キャリアセンターの利用も専門性・教育目標を除く学士力の諸側面と関連することが示された。また、「語学・異文化学習支援室」の利用及び「外国人教員との交流」が特に多文化・異文化の理解に寄与していることが示された。

表5-1 学士力等の伸びと施設利用の関係

	図書館	美術館	キャリアセンター	保健室・ウェルネス支援室 学生相談室	ラーニングコモンズ	語学 異文化学習支援室	外国人教員との交流	留学生との交流	オフィスアワーの利用	リエゾン・ポートフォリオの利用
知識・理解	多文化・異文化に関する知識		.17*	.19*	.15*	.20**	.21**	.21**	.19*	.23**
	人類の文化・社会と自然に関する知識		.22**	.17*		.16*	.19*		.15*	.22**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		.23**	.19*	.16*					.16*
	自律・自立した学習を続けていく知識		.27**		.19*					.22**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		.17*	.15*					.15*	.25**
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる		.24**		.16*					.23**
	レポートを作成することができる		.18*	.22**	.18*	.23**	.20**	.16*	.21**	.29**
	表やグラフを用いることができる				.20**					.23**
	ICTを用いて情報収集ができる	.16*		.23**		.24**				.24**
態度・志向性	ICTを用いて過程や成果を表現できる		.17*		.18*					.26**
	多角的かつ論理的に分析できる		.20**	.20**	.30**					.22**
	自らを律して行動できる		.19*	.15*	.16*					.21**
	他者と協調・協働して行動できる		.23**	.16*						.26**
創造的思考力	良心と社会の規範にしたがって行動できる		.27**					-.18*		
	社会の一員として、積極的に関与できる		.23**	.15*	.21**					.18*
	キャリア形成に取り組むことができる		.23**							.26**
	所属する学科の専門的な知識			.19*	.16*					.23**
専門性	所属する学科の専門的な技術や技能									.21**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観		.20**							.20**
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標				.21**					.26**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標				.21**					.26**
	学習に意欲的に取り組むことができる	.15*		.32**		.17*				.21**
意欲	教員・友人と意欲的に関わることができる		.24**	.15*	.29**					

注1 :有意な相関係数のみ掲載 * p<.05 ** p<.01

続いて、学士力等の伸びと履修時のシラバス・履修モデル・履修系統図の活用に関連について表 5-2 に示す。これらより特に「学習成果のフィードバック、学生対象の各種アンケート」の活用と学士力等の伸びに正の関連が示された。

表5-2 学士力等の伸びと履修時の参考の程度の関係

		履修モデル・履修系統図の活用	ルーブリック評価の活用	GPAの活用	学習成果のフィードバックの活用	学生アンケート・授業評価アンケートの活用	卒業生アンケートの活用
知識・理解	多文化・異文化に関する知識		.30**	.25**	.39**	.29**	.23**
	人類の文化・社会と自然に関する知識		.31**	.31**	.39**	.30**	.32**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.16*	.21**	.24**	.24**	.18*	.18*
	自律・自立した学習を続けていく知識		.15*	.22**	.28**	.28**	.22**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		.18*	.17*	.23**	.21**	.19*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			.18*	.20*	.23**	.17*
	レポートを作成することができる		.22**	.21**	.30**	.27**	.19*
	表やグラフを用いることができる	.25**	.26**	.33**	.36**	.35**	.25**
	ICTを用いて情報収集ができる		.15*	.25**	.30**	.34**	.17*
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.26**	.20**	.24**	.29**	.27**	.18*
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる			.23**	.25**	.30**	.16*
	自らを律して行動できる		.18*		.24**	.23**	.19*
	他者と協調・協働して行動できる		.15*		.27**	.23**	.24**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる				.20**	.19*	.16*
	社会の一員として、積極的に関与できる		.18*		.30**	.26**	.26**
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる				.23**	.16*	.17*
	総合的に活用して学習活動できる			.18*	.20**		.19*
	問題の発見を楽しんだりできる			.21**	.23**	.20**	.16*
専門性	問題について解決へ導くことができる		.26**	.16*	.29**	.21**	.21**
	所属する学科の専門的な知識						
	所属する学科の専門的な技術や技能				.18*		
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観				.31**	.19*	.24**
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		.25**	.24**	.36**	.29**	.28**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.17*	.21**	.22**	.31**	.35**	.28**
	教員・友人と意欲的に関わることができる			.15*	.17*	.26**	.18*

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

学士力等の伸びと履修時の学科の教育目標等の認知の関連について表 5-3 に示す。総じて正の関連が示されている項目が多いと言えるが、特に強い傾向は示されなかった。

表5-3 学士力等の伸びと教育目標他の認知の関係

		学科の教育研究上の目的・教育目標	学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	大学の学修成果の方針(アセスメント・ポリシー)
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.19*	.26**	.25**
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.36**	.39**	.39**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		.18*	.19*
	自律・自立した学習を続けていく知識	.19*	.19*	.19*
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.16*		
	レポートを作成することができる	.26**	.22**	.20**
	表やグラフを用いることができる	.32**	.33**	.35**
	ICTを用いて情報収集ができる	.21**	.17*	.19*
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.29**	.31**	.28**
	多角的かつ論理的に分析できる	.25**	.25**	.26**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.16*	.19*	.17*
	他者と協調・協働して行動できる	.20**	.21**	.20*
	良心と社会の規範にしたがって行動できる		.24**	.26**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.20**	.33**	.29**
	キャリア形成に取り組むことができる		.17*	.19*
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.18*	.26**	.26**
	問題の発見を楽しんだりできる	.16*	.24**	.23**
	問題について解決へ導くことができる	.26**	.31**	.31**
専門性	所属する学科の専門的な知識	.20**	.18*	.19*
	所属する学科の専門的な技術や技能	.22**	.20**	.21**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.36**	.34**	.33**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.32**	.32**	.29**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.22**	.24**	.23**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.20**	.17*	.17*

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

9. 学びの充実度と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと学びの充実度との関連について表6に示す。特に.40を超える相関係数を斜体で示した。専門演習を除いた項目にて学士力等の伸びと正の関係が示されているが、このことは「専門演習がどのような学習方法・学習スタイルを採用しているか、アクティブラーニングや問題解決型学習を採用しているか」どうかによって感じられる伸びの程度が異なることを示していると思われる。

表6 学士力等の伸びと学びの充実度との関係

		アクティブラーニング	PBL	小人数教育	キャリア教育	専門演習	大学生生活全般
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.26**	.33**	.33**	.32**	.21**	.36**
	人類の文化 社会と自然に関する知識	.29**	.33**	.30**	.37**	.17*	.30**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.28**	.27**	.19*	.27**		.28**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.23**	.23**	.18*	.23**		.40**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.30**	.21**	.25**	.30**	.21**	.31**
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.32**	.24**	.24**	.29**		.29**
	レポートを作成することができる	.23**	.24**	.27**	.25**		.30**
	表やグラフを用いることができる	.25**	.23**	.31**	.30**		.19*
	ICTを用いて情報収集ができる	.32**	.32**	.25**	.31**	.20**	.22**
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.43**	.37**	.34**	.38**	.30**	.22**
	多角的かつ論理的に分析できる	.37**	.38**	.26**	.36**	.24**	.33**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.33**	.32**	.18*	.25**	.19*	.35**
	他者と協調・協働して行動できる	.33**	.29**	.32**	.30**	.23**	.33**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.30**	.31**	.20**	.30**		.30**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.29**	.32**	.33**	.38**		.39**
	キャリア形成に取り組むことができる	.26**	.29**	.18*	.22**		.35**
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.32**	.26**	.21**	.33**		.25**
	問題の発見を楽しんだりできる	.35**	.36**	.26**	.34**		.37**
	問題について解決へ導くことができる	.44**	.37**	.33**	.34**		.27**
専門性	所属する学科の専門的な知識	.25**	.27**	.27**	.31**	.19*	.16*
	所属する学科の専門的な技術や技能	.28**	.28**	.24**	.32**	.16*	.18*
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.26**	.27**	.25**	.30**	.17*	.17*
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.33**	.33**	.31**	.38**	.21**	.22**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.35**	.27**	.28**	.37**		.43**
	教員・友人と意欲的に関わるができる	.42**	.26**	.24**	.26**	.19*	.50**

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

10. 活動時間と学士力等の関連

学士力等の伸びと統計的に有意に関連が示された諸活動は表7の通りであった。特に「キャリア形成活動」「ボランティア活動」に費やす時間の多さと学士力等の伸びに正の関連が示される項目が多かった。また、「授業・予復習以外の学習」は学士力の中でも「自律」に関わる項目と正に関連していることが示された。

表7 学士力等の伸びと活動時間の関係

		授業出席	授業の予復習	授業・予復習以外の学習	部活・サークル	ボランティア	アルバイト・仕事	時事問題等のチェック	キャリア形成活動
知識・理解	多文化・異文化に関する知識					.16*			.16*
	人類の文化・社会と自然に関する知識		.18*						.19*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識					.17*			
	自律・自立した学習を続けていく知識			.21**		.22**			.19*
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			.18*					.19*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			.20**		.17*			.19*
	レポートを作成することができる					.21**			.22**
	表やグラフを用いることができる								.20**
	ITを用いて情報収集ができる			.16*		.18*			.18*
	ITを用いて過程や成果を表現できる					.16*	-.18*		.17*
	多角的かつ論理的に分析できる	.16*	.19*			.20**		.17*	.19*
態度・志向性	自らを律して行動できる			.20**		.27**			.20**
	他者と協調・協働して行動できる			.16*		.19*			.21**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.19*				.18*			.29**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.24**		.20**		.15*			.25**
	キャリア形成に取り組むことができる			.19*		.25**			.26**
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる			.15*					.21**
	問題の発見を楽しんだりできる			.22**		.21**		.17*	.26**
	問題について解決へ導くことができる	.17*		.16*					.19*
専門性	所属する学科の専門的な知識					.18*			
	所属する学科の専門的な技術や技能					.24**			
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観					.20**			.27**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		.16*						
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		.15*	.22**		.27**			.30**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.17*				.21**			

注1:表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

11. 学びの充実度と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと学びの充実度との関連について表8に示す。特に.40を超える相関係数を斜体で示した。学習支援に感じる充実度と東北福祉大で学んでいることという全体的な充実度が学士力等と全体的に正の関連を示した。

表8 学士力等の伸びと教育への満足度との関連

		学習支援	経済支援	キャリア形成支援	学生生活支援	学んでいること
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.33**	.30**	.29**	.26**	.24**
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.34**	.34**	.30**	.23**	.25**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.21**		.17*	.16*	.25**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.27**		.16*		.26**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる				.17*	.19*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.23**				.24**
	レポートを作成することができる	.19*	.19*		.22**	.23**
	表やグラフを用いることができる	.35**	.33**	.32**	.28**	.35**
	ITを用いて情報収集ができる	.38**	.26**	.28**	.25**	.43**
	ITを用いて過程や成果を表現できる	.27**	.26**	.25**	.25**	.32**
	多角的かつ論理的に分析できる	.25**	.25**	.24**	.28**	.32**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.27**		.23**	.20**	.35**
	他者と協調・協働して行動できる	.31**		.20**	.16*	.35**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.22**		.20**	.18*	.30**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.18*			.18*	.21**
	キャリア形成に取り組むことができる	.25**	.18*	.19*	.17*	.29**
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.26**		.16*		.23**
	問題の発見を楽しんだりできる	.25**	.18*	.19*	.24**	.23**
	問題について解決へ導くことができる	.23**		.16*	.21**	.24**
専門性	所属する学科の専門的な知識		.18*			.28**
	所属する学科の専門的な技術や技能	.17*			.15*	.29**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.34**	.30**	.25**	.17*	.35**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.31**	.26**	.20*	.21**	.35**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.21**	.19*	.20**	.29**	.36**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.31**	.26**	.27**	.26**	.44**

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

【資料1 学士力達成度・専門性の向上・教育目標の達成・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 3年次進級時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識が理解できた
- 2) 3年次進級時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分と社会・生活との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 3年次進級時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を獲得した
- 4) 3年次進級時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 3年次進級時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 3年次進級時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 3年次進級時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 3年次進級時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 3年次進級時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 3年次進級時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 3年次進級時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 3年次進級時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 3年次進級時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 3年次進級時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 3年次進級時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 3年次進級時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 3年次進級時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざまな知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 3年次進級時に比べ、社会を広く見渡し、疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 3年次進級時に比べ、発見した問題について、情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 専門性

- 20) 3年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な知識が身に付いた
- 21) 3年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた
- 22) 3年次進級時に比べ、所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観が身に付いた

(6) 教育目標

- 23) 3年次進級時に比べ、所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標に近づいた

(7) 意欲

- 24) 3年次進級時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 25) 3年次進級時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるようになることができた